



神聖娼婦と

あまあまセックス!

～女装青年、前世は女の子でした!～

女装姿と女の子姿の
両方が見れるCG集!!

神聖娼婦しんせいしょうふ——それは性交渉をすること、相手に神の力を授けるといふ巫女だ。

僕が以前に読んだ文献には、
たしかそのような記述があった。

もちろん、神聖娼婦が存在したのは
ずっと昔で、現代日本に
いるはずがない。

そのはずなのだが。



あなたに神の力を
分け与えます

それが
神聖娼婦である僕の
役目ですから

戸惑う僕に向かって
目の前にいる青年は
優しく微笑んだ

神聖娼婦と

あまあま

セックス!

～女装青年、前世は女の子でした!?!～



は!?
な:何を
言ってるんですか!?

もしかして新手の詐欺!?
僕お金持ってます!

あわ

違いますっ!
ちよつと落ち着いて
くださいっ!

詐欺じゃないにしても
不審者だ!
警察に:!!

あわ

え!?
待ってください!
話を聞いてください!

僕は本当に神聖娼婦
なんですよ！

信じてください！

そもそも君は男でしょ！?
おかしくないですか!?

確かに今は男性ですが
前世は女性でした！

なぜか男性として
生まれ変わって
しまったんですっ！

前世!?
意味がわかりません！

とにかく…っ！



とにかく僕とセックスしてください！

抱いてほしいんです…！

え…っ!?

これはもしかして特殊なナンパなのか…？

男だけど顔はいいし
そういうお誘いなら
乗ってもいいかも…

お金とか請求
しませんか…？

しませんよ！

じゃあ抱いても
いいですよ

…！
ありがとうございます！
ございます！

場所は僕の家で
いいですか？

はい
案内よろしく
お願いしますね
参拝者さん

参拝者？
ああ：神聖娼婦っていう
設定だからか

そういえば
君の事は
何て呼べばいいですか？

雷^{らい}って呼んでください
今の名前です

雷くんね
じゃあ行きましょうか

はい

雷を連れて帰宅した僕は
彼を寝室へ通す

着たい服があるので
着替えてもいいですか？

構いませんよ

では
ちよつと待ってて
くださいね

雷は持っていたバッグから
服を取り出して着替える



どうですか？

その服…
やるために
用意したんですか？

はい…
似合わない
でしょうか…？

てれ

いえ
すごく似合ってます
可愛い

なら良かったです
あなたのために用意した
衣装なので

僕のため？

たまたま僕と会ったんじゃないかと
前から狙われてたのか？

もしかしてストーカー…？
僕なんかに？

いやストーリーカーなわけないか
僕のためっていうのは
きつと言葉のあやだな

そろそろベッドに
行きませんか…？

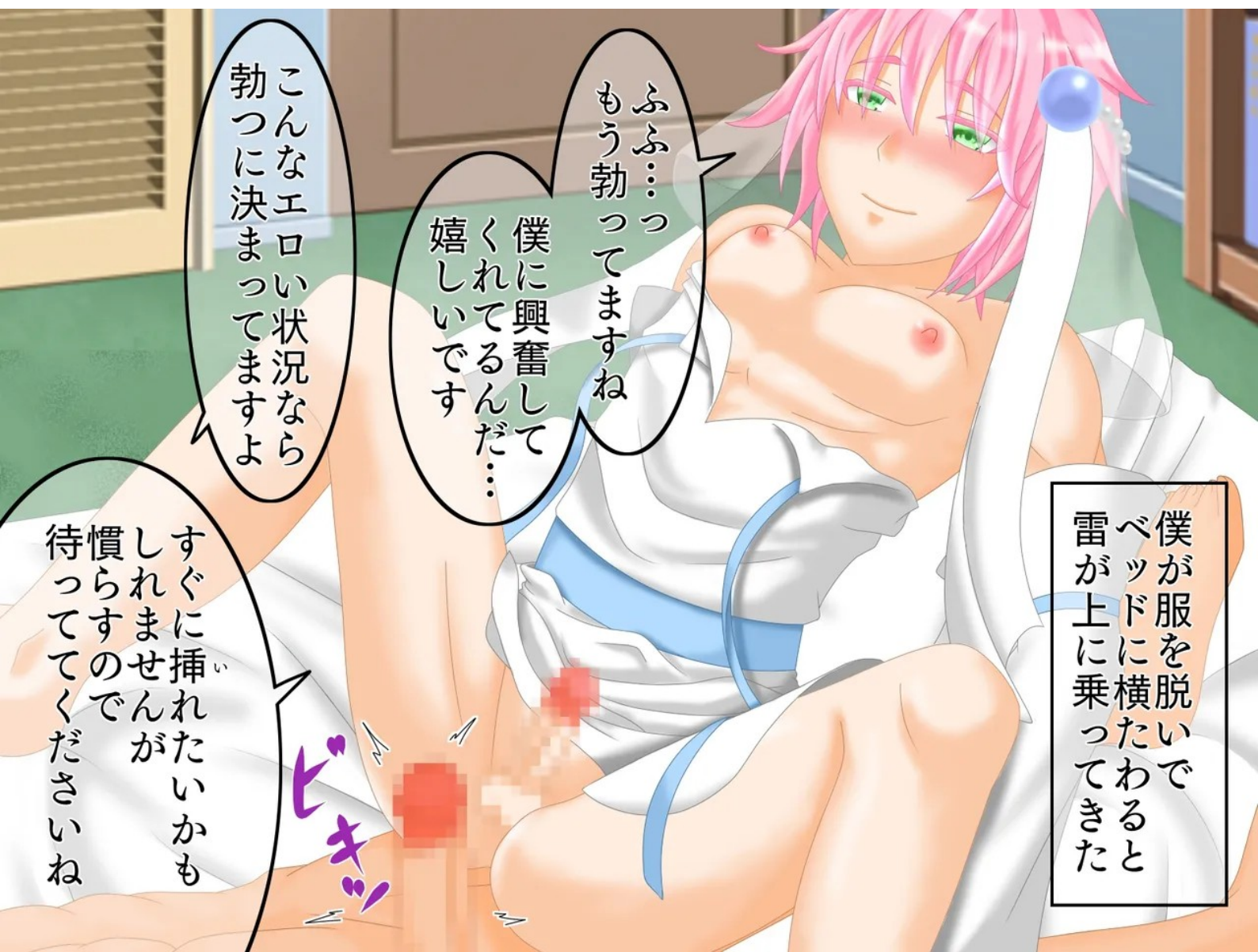
そうですね

ではベッドに
横たわってもらえますか

あの…
嫌でなければですが
上に乗りたいです

騎乗位ですか？
もちろんいいですよ





僕が服を脱いで
ベッドに横たわると
雷が上に乗ってきた

ふふ…っ
もう勃ってますね

僕に興奮して
くれてるんだ…
嬉しいです

こんなエロい状況なら
勃つに決まっていますよ

すぐに挿れたいかも
しれませんが
慣らすので
待っててくださいね

ベキッ



恥ずかしいから
あんまりじろじろ
見ないでください…っ

ゆっくりで
大丈夫ですよ

自分でアナルに
指を突っ込んでる君を
見るのも楽しいし

家でも慣らしてきたから
そんなに時間は
かからないので…

ん…っ

えー…
見たいなあ
じっくり
見せてくださいよ

ふっ

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

はっ♡



っ
っ

かあ

はっ♡

大丈夫です

挿れてもいいですか？

もっと慣らさなくて大丈夫ですか？

もう終わりましたからっ！

ひくん♡

雷くんがいいならもちろんいいですよ



動けますか？

ぬるる

雷くんの中
ちようどいいキツさで
気持ちいいよ

はあ…っ

はー♡

ぶる

ふう…っ
ん…っ

はい
挿入
った…

良かったです…

はい…

ぶる

ぞわわ
ッ



んあっ…
どうですか…?

僕も…っ
お尻まんこっ
気持ちいいです…っ

はあっ
凄くいいよ…
最高…っ

雷くんは?

はあ…っ

ふう…っ
あ…っ
あ…っ

はっ
はっ

はっ
はっ

ずっ
ずっ

ずっ
ずっ

ビク
ビク



ん…っ
あ…っ

ご加護を…っ

雷くん？
何かありました…？

参拝者さんに…っ
神の…ご加護を…！

神よ…っ
この者にお力を…っ
お与えくださいっ！

ええ…っ！
ちよつと雷くん…！

そういうえば神聖娼婦とか
そんな設定だったけど
今それを言うのは
マニアックすぎません！？

びく

びく

じゅい

すい



はー♡

設定じゃなくて
本当に神聖娼婦なんです…っ

こうして参拝者さんに
神の力を
与えているんです…っ！

な…なるほど…？
まあ特殊セリフぐらい
別にいいか…

参拝者さんも…っ
お祈りしてくださいっ！

は…!?
いや…それは
恥ずかしいですよ！

じゅる

じゅる



はっ♡

さあ「私に神のご加護を」と
言ってくださいっ!

…わ…私に
神のご加護を

んっ!
お力をどうか
この者に…っ

あ…っ
ふう…っ
ひあっ!

雷くんそろそろ
イキそう…?

僕もイキそうだし
もうちよつと激しく
動けますか?

ひゅんっ

じゅぽっ

ひゅん♡

じゅぽっ



わかりましたっ

こう…ですか…っ？

はあ…っ
上手です…っ

あっ…んっ！
これイッちゃうっ！

ふう…っ
イっていいですよ

ひゅっ

ひゅっ

ひゅっ

やっ…あ…っ
神さま…っ

加護をおおっ

ビュ

ビュ

ビュ





はあ♡

はあ…っ♡
これであな
神のお力が
分け与えら
れましたが…

どうでしたか♡

ふー…
ちよつとマニ
アック
だったけど
気持ち良か
ったです

ふふっ…
そうですか♡

いふる

こっ♡

いふる
トロ♡♡

雷くんは呼吸を整えた後
僕の上から退く

今日はありがとう
ございました

こちらこそ
ありがとうございます

また会って
くれますか…？

もちろんです！
連絡先を
交換しましょうか



はい…！

では
そろそろ帰りますね

もう帰るんですか？
もうちょっと
ゆっくりしていても
大丈夫ですよ

この後お仕事も
あるので…

そうですか…
ではまた今度

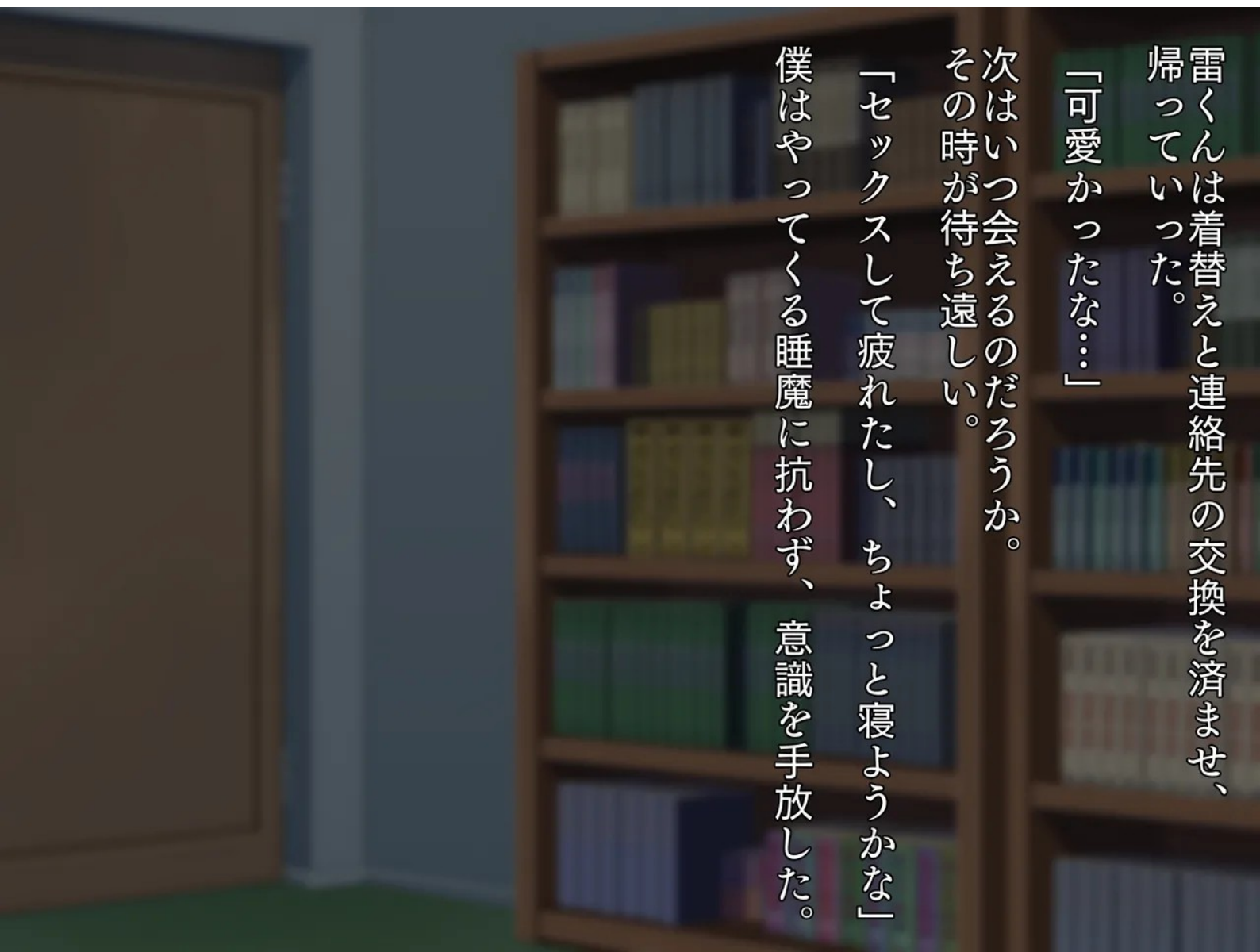


雷くんは着替えと連絡先の交換を済ませ、
帰っていった。

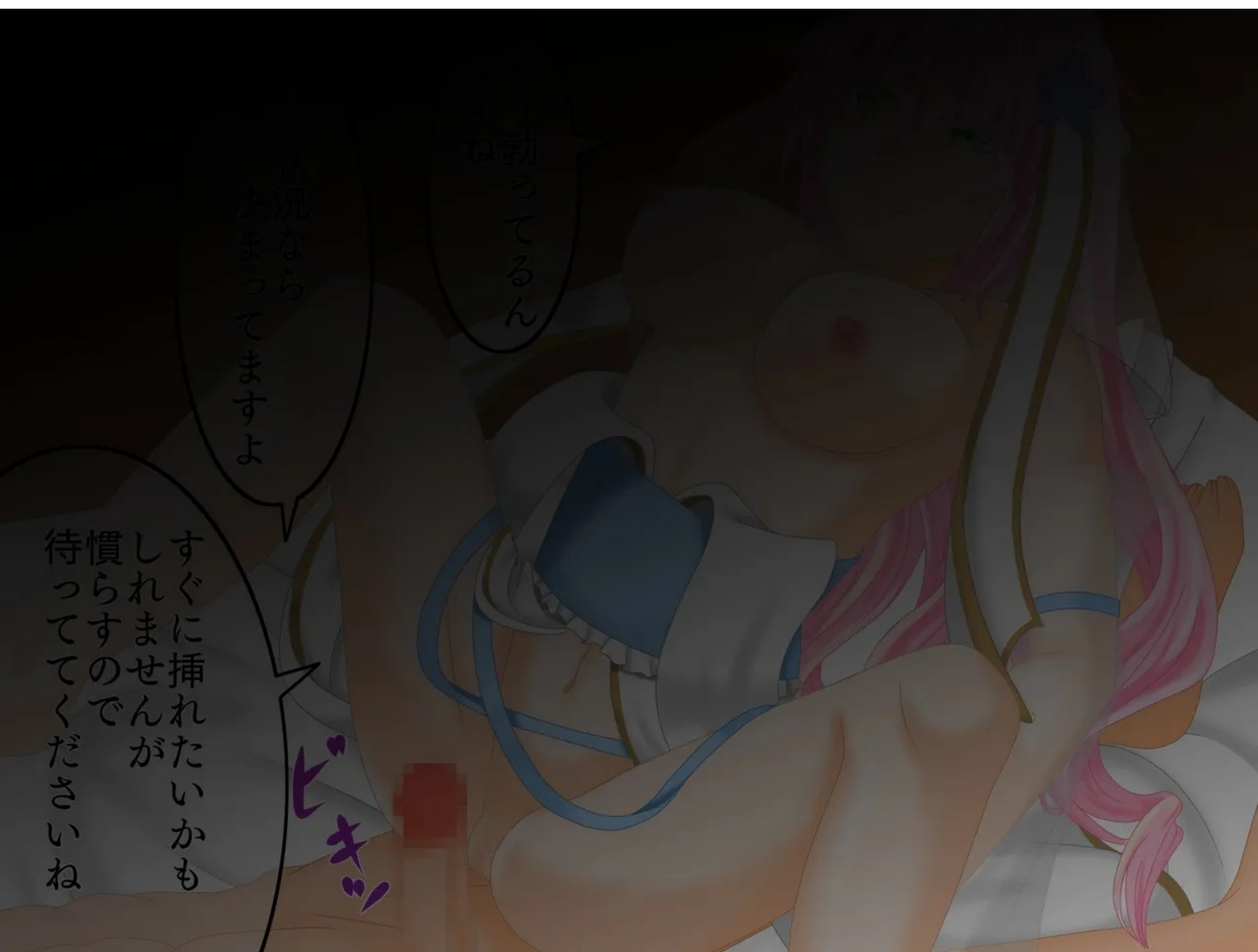
「可愛かったな…」

次はいつ会えるのだろうか。
その時が待ち遠しい。

「セックスして疲れたし、ちよつと寝ようかな」
僕はやってくる睡魔に抗わず、意識を手放した。







ね勃ってるん

い況なら
大まっていますよ

すぐに挿れたいかも
しれませんが
慣らすので
待っててくださいね

ビキッ



もう勃ってるんですね

この状況なら
勃つに決まっていますよ

すぐに挿れたいかも
しれませんので
慣らすので
待っててくださいね

ビギッ



はじめてですか
僕が最初の参拝者
だったんですね

ゆっくりで
大丈夫ですよ

ありがとう
ございます……っ

すみません
初めてで……
できるだけ……
急ぎますから……

ん……っ

は……

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

い……る

い……る



は！

大丈夫です
挿れますね…？

はい

この位でいいかな…
終わりました

もっと慣らさなくて
大丈夫ですか…？

ひくっ♡



痛いですか？

ぬるる

はあ…っ
ライカちゃんの中
気持ちいいよ…

良かったです…

ちよつとだけ…

ぶるっ

はっ

ぶる

ふう…っ
ん…っ

はい
挿入…

アッ
アッ
アッ



無理しないでくださいね
なじむまで待てるから

すみません...

謝ることないですよ
僕はライカちゃんにも
ちゃんと気持ちよく
なっってほしいし...

ゆっくり
やりましょう

ギッ



：ありがとうございます
優しいんですね

では
もうちょっとだけ
このままで…

はい
僕はこうやって君に
包まれているだけで
充足感があるし

ずっとこのままでも
良いですよ

ふっ…っ
そうですか



はー♡

本当ですか...?
嬉しいです
もっと参拝者さんを
感じたい...

動いていいですか...?

僕も君の存在を
強く感じます

私の中で
あなたの存在を
しっかりと感じます...

参拝者さんの
おちんぽ...
ドクドクって
脈打ってる...

もちろん
いいですよ



はっ♡

はっ♡

ふっ…んんっ
はう…っ

気持ちいい
ですか…？

はあっ
気持ちいいです…

ライカちゃんは？

私も…っ
おまんこっ
気持ちいいです…っ

良かった…

ずっ

ずっ

ずっ



参拝者さんに...
神の...ご加護を...!!

参拝者さんも
祈りを
捧げてください...

はい...
私に神のご加護を...!!

あう...
ご加護を...

びく

神よ...
この者にお力を...
お与えください!!

じゅ
ぶ

す
ぶ



はっ♡

はっ♡

あっ...んっ...!
お力をどうか
この者に...っ!

あ...っ
んあ...っ...ふっ...
ひっ...!

ライカちゃん
イきそう...?

はい...っ!
イっちゃんいそうです...っ!

僕もです...
もう少し激しく
動けますか?

じゅぽっ

きゅっ♡

じゅぽっ



頑張ってみます…っ！

あ…っ！
こんな…っ…感じですか…っ？

は…っ
その調子です…

し…あ…っ…！
まちやう…っ
まちやう…っ！

く…っ
いってください…！

神さま…神さま…っ
か…っ
加護をお…

ビク

ひく…

ひく…

ビク
ビク
ビク





はぁ♡

し…っ♡
ふう…っ♡
これで…っ
神のお力が
分け与えられ
ました…っ♡

とっ♡

ふう

ふー…
ありがとうございました

私を選んでくれて
ありがとうございました

こちらこそ
お相手してくれて
ありがとうございます

はじめての
神聖娼婦のお仕事で
ちよつと
不安だったのですが

あなたが相手に
良かったです

では
私はこれで
失礼しますね



もう行っちゃうんですか？

この後もまだ
お仕事があるので…

そうですか…

「まだ一緒にいたい」
僕はあの時
そう思った





目を覚ました僕は部屋の天井をぼんやりと眺める。

ライカちゃんと一緒にいた部屋とは、全く違う天井だ。

当然だろう。

だってライカちゃんは、ここで僕が見ていた夢の住人なのだから。

彼女といた場所も、

夢が作り上げた架空の部屋だ。

夢では、雷くんが女体化したような女性と、彼とのプレイそっくりのセックスをしていた。

今までにしたセックスの中で1番インパクトがあったし、夢に見たのだろう。

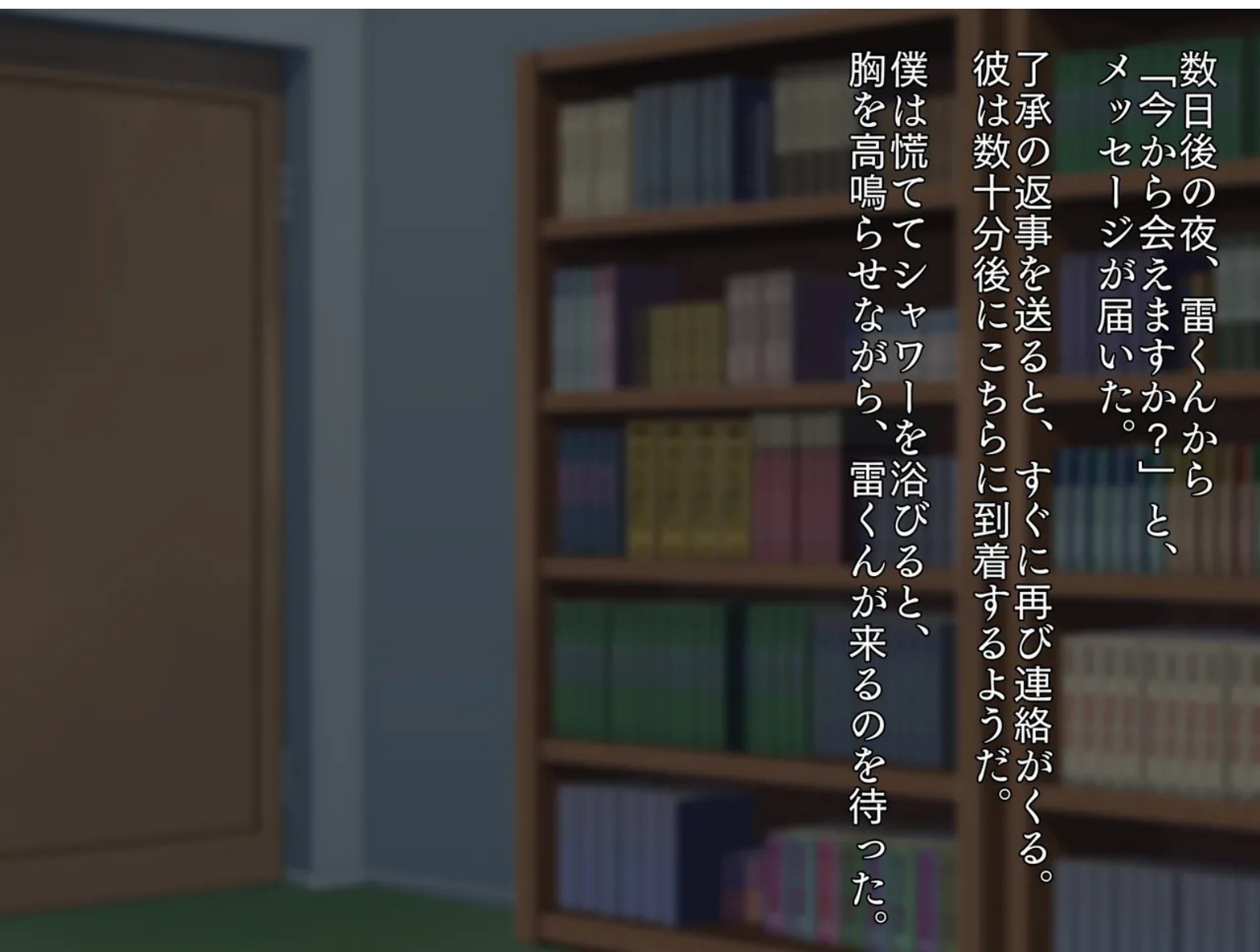
「…雷くん、次はいつ会えるのかな」

彼の事を思い浮かべながら、僕は再び眠りに落ちた。

数日後の夜、雷くんから
「今から会えますか？」と、
メッセージが届いた。

了承の返事を送ると、すぐに再び連絡がくる。
彼は数十分後にこちらに到着するようだ。

僕は慌ててシャワーを浴びると、
胸を高鳴らせながら、雷くんが来るのを待った。



数十分後――

お邪魔します

いらっしやい

あれ：？
髪が濡れてますね
お風呂に入っ
たんですか？

あ：はい

もしかして
「先に風呂入って待ってるとか
やる気マンマン過ぎ」
って思われたか？
引かれた：？

参拝者さんは
お風呂に入らなくても
良かったのに
前はシャワー浴びず
に
したじゃないですか

：良かった
引かれてない

時間もあつたし
綺麗にしておこうと
思いました：

雷くんはそのまま
大丈夫ですよ

ふふっ
僕もお家でシャワーを
浴びてきたんです

：じゃあ
早速やりますか？

はい
じゃあ着替えますね

着替え終わりましたよ

あれ…?
おっぱいがないな…

…?
僕は男ですから
おっぱいは
ありませんけど…?

え…
あ…っ!
すみません!
ちよつと夢とごっちゃに
なっちゃって…!

…夢…ですか

まずい…
男性の雷くんより
女性とセックスしたいと
思ってるって
勘違いさせちゃったかな

雷くん！
ベッドに行きましょう！
早く君とセックスしたいです！

めちやくちやがつついてる
セリフを言っちゃった…

でも他の女性じゃなくて
雷くんとしていたって事を
伝えたいし…

ふふ…っ
わかりました
ベッドに行きましょうね

…はい！



絶景ですね
雷くんのお尻が
全部見えるよ

雷くんにな
うつ伏せに
なるように
お願いすると
すぐになれる
してくれる
通りに



見すぎです…っ！
この前も
思いましたけど
参拝者さんは視姦が
好きなんですか？

とくに視姦が好きとか
じゃないけど

こんなエロい
光景だったら
じつくり
見たくりますよ

あわっ
ドキドキ♡



...っ!
雷くんは本当に
エッチだな...

じゃあ挿れますよ

...見てないで
早くおちんぽ
挿れてください!

ぐ
き
ど
き

ゆ
ら

ふ
ん♡

ゆ
ら



はあっ♡

ビクッ

はあ...っ
前回よりも
アナルふわとろですね

やあああっ!
おちんぽ
またあ...っ

ズ

ポ!

ズクッ

ふふ...っ
今日ののために...っ
お尻まんこっ

いったんぱい開発
したんですっ...!

ヌポポ

へえ…
自分でたくさん
弄ったんですね

アナルに
おもちゃとか挿れて
ズポズポした？

んあ…
し…したっ
デイルド挿れて
ズポズポしました…っ！

ひくっ♡

そんなに
開発しちゃうほど
僕にハメられ
たかったですね



デイルドの他に…

はっ
はっ

もういいでしょう!?

早く参拝者さんの
おちんぽでっ
スポスポしてくださいっ!

そわ

あははっ
すみません
ちよっと
虐めなくなっちゃって

今から動きますね



こりっ♡こりっ♡

ぎゅん♡

ひぐ...っ
そこ好きっ
もっとして...っ!

ひっく

焦らしたお詫びに
前立腺をカリで
コリコリしてあげますね

はぁ♡

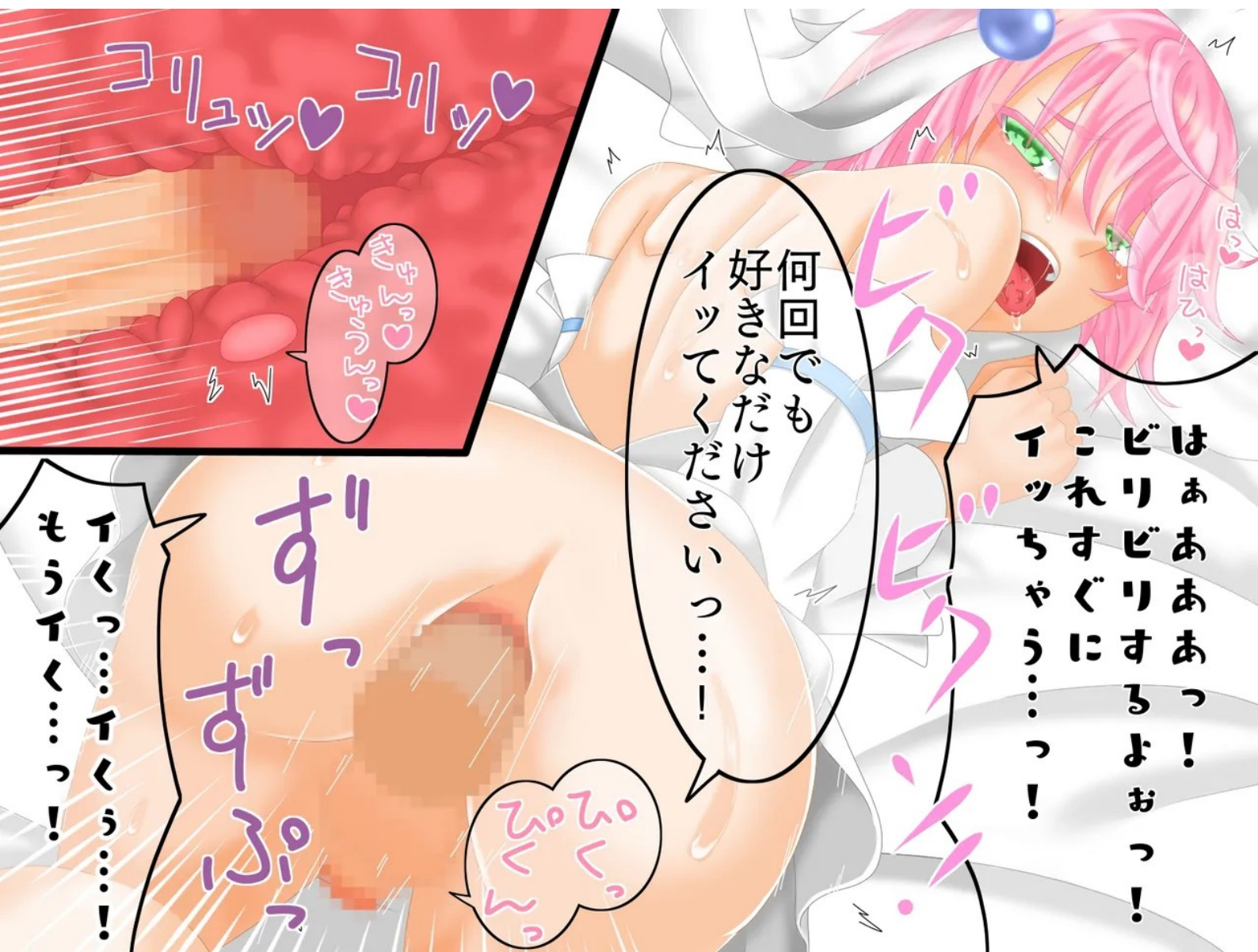
あっ...ひっ!
中っ...擦れてるっ!

びくん♡

じゅぽっ

じゅぽっ

わかりました



コリユッ♡コリッ♡

だんご♡
だんご♡
だんご♡

何回でも
好きだから
イッてくださいっ…!

ビク
ビク
ビク

はぁぁぁっ!
ビリビリするよぉっ!
これすぐに
イッちゃうっ…!

ず
ず
ず

ひひひ
くくく
んんん

イクっ…イクっ…!
もうイクっ…!







参拝者さんにい…
神のご加護を…っ！

神よ…っ
この者に…お力を
お与えください…っ！

えーっと…
私に神のご加護を…？

あぐ…っ
またイクっ！
くる…っ！

僕も射精…！





ふふ……っ
そうですか……♡

うん
お疲れ様でした

今回も気持ち良かったです

はあ♡

はあ……♡
神の力が……っ
分け与え
られました……！

僕はアナルからちんぽを引き抜き、
事前には用意しておいたタオルを手にとった。
精液や汗でドロドロな雷くんの体を、
タオルで丁寧に拭く。

「ぼ、僕、自分で拭けますっ！」

「僕に任せてください。
疲れたでしょう？」

手早く体を拭き終え、雷くんの隣に寝転がった。

「少し眠りましょう。」

「夜遅くなったら、泊まっていけばいいし」
「：そうですね」

雷くんを抱き寄せると、
彼は大人しく腕の中に収まる。
その様子になぜだか懐かしさを感じたが、
深くは考えずに目を閉じた。





今回も
よろしく
お願いします

また私で
いいですか？

日は私の他に
人も巫女がいたのに…



今回も
よろしく
お願いします

あの…また私で
いいんですか？

今日は私の他に
何人も巫女がいたのに…



そんなのは
関係ないですよ
僕はライカちゃんか
いいんです

…私は経験も浅くて
上手ではないのに？

女の子らしい
顔立ちでもないし
背もわりと
大きいですよ？

下手でも
構いませんよ

顔は整っていて
背だって僕よりは
低いし

君は誰よりも
魅力的です



え…？
誰よりも…？

はい
僕は君の事が
好きなんです

実は一目惚れ
だったんですよ

嘘：
前回そんな事
言わなかったじゃ
ないですか

恥ずかしくて
言えなかったんですよ



わ…わかりましたから！
早くおちんぽ
挿れてくださいっ！

好き…好きです
ライカちゃんの事が
好きなんです

えっ…えっ…っ！？

…っ！
じゃあ挿れますよ…？

きゃん♡

かあ



はぁっ♡

前回も思ってたけど
ライカちゃんのおまんこ名器すぎ...っ

やぁぁぁっ!

おちんぽ
またぁ...っ

名器...?
よくわからないけど
参拝者さんが嬉しいです...っ!

スッパッ

スッ

プッ

はあ♡

はあ…
永遠にこうやって
ライカちゃんの
中にいたいです

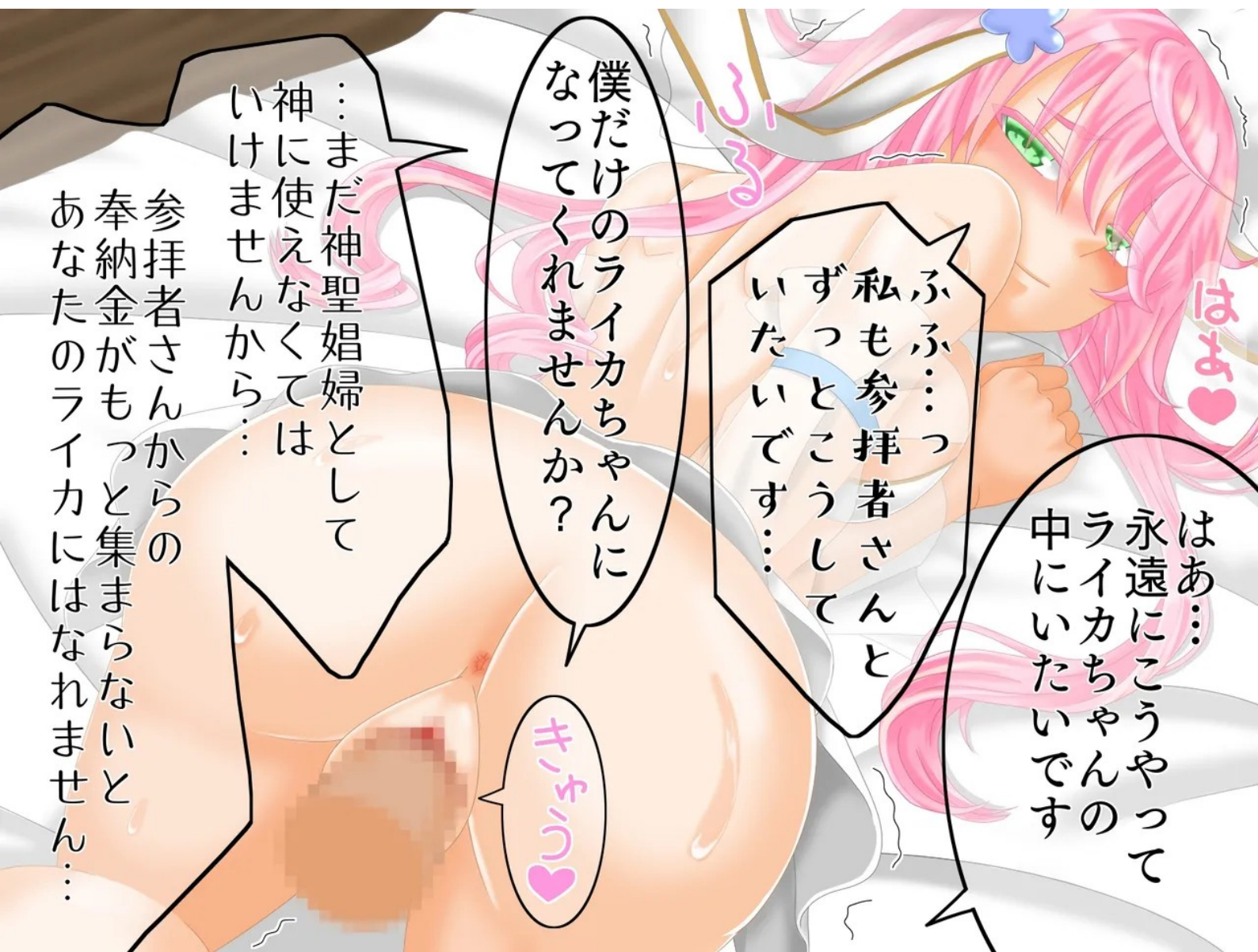
ふふ…っ
私も参拝者さんと
ずっとこうして
いたいです…

僕だけのライカちゃんに
なってくれませんか？

きゃっ♡

…まだ神聖娼婦として
神に使えなくては
いきませんから…

参拝者さんからの
奉納金をもっと集まらないと
あなたのライカにはなれません…





…そうですよね
急にすみません

君が僕の元に
来れる時を
待ってますから

はい
待っていてください

…じゃあ行為を
再開しますね

ええ
動いてください



もって激しく
おまんこがさ
あまの形にっ
あなたらしい
なるくらゐっ

良かった

うんっ…
気持ちいいです

痛いですか？

ひあ…っ！
ふうっ…んっ…！

分かりました…っ

ちゅ
13.0

14
13.0



ぐちゃん

ぐちゃ

ぐわん

ぐわ

しゃん...っ！
満ちたして
いっぱい射精して...っ！

うん
この中をすぐに
精液で満ちたして
あげますからね...っ！

あ...ん...っ...！
子宮口...ガッガッ
当たってる...っ！



私に神の
ご加護を……っ！

あっ……神よっ
この者に……っ
お力をお与えくださいっ！

参拝者さんにつ
神のご加護を……っ！

あっ……あうっ！
お祈りしないと……っ！

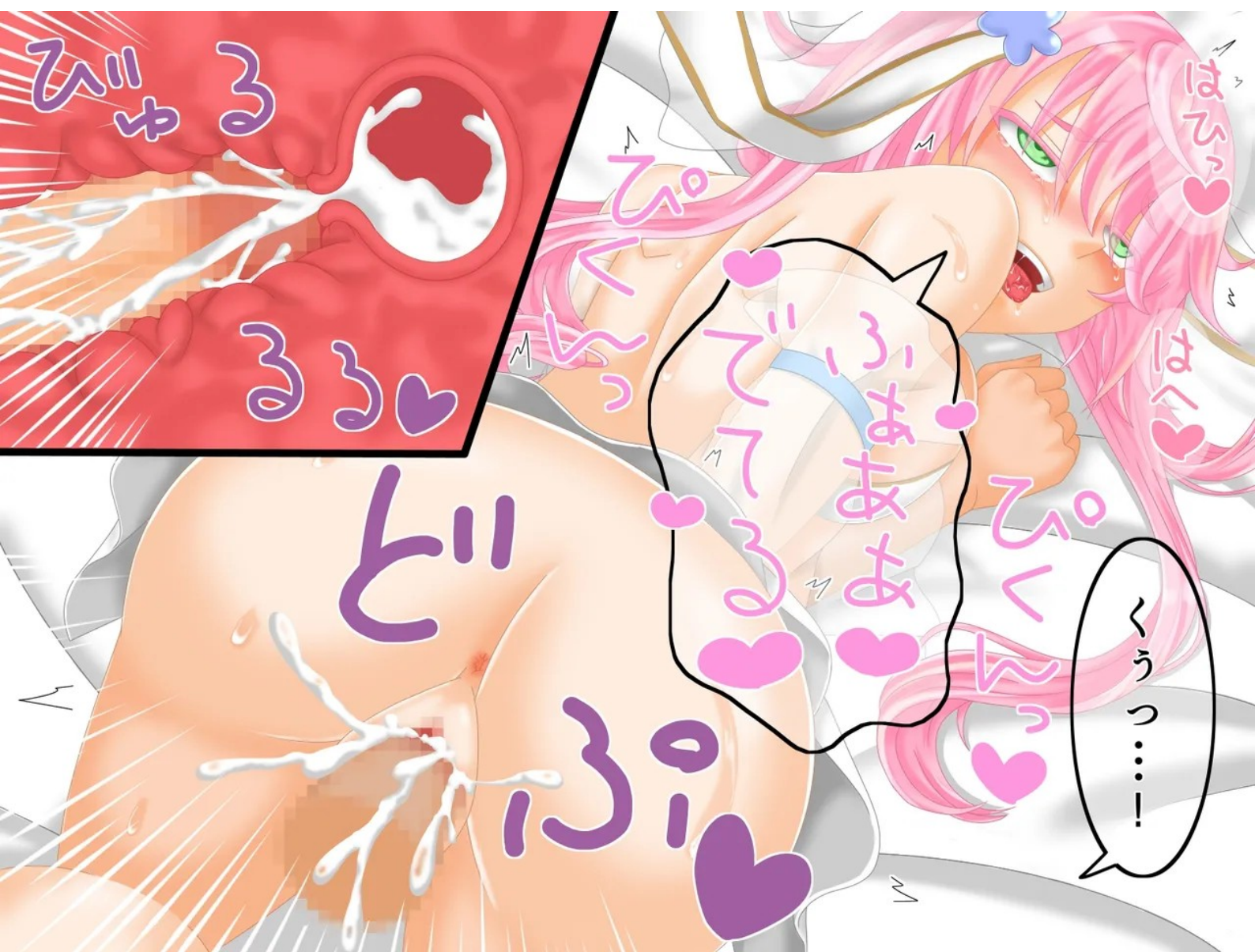
はっ
♡

ちゅぱん
じゅぱん
じゅぱん

じゅぱん
じゅぱん
じゅぱん









はあ♡

ライカちゃん
すごく可愛かったです

ふふ…っ
嬉しいです♡

またライカちゃんに
会うために
参拝しに来ますから

お金がないから
頻繁には無理ですが…

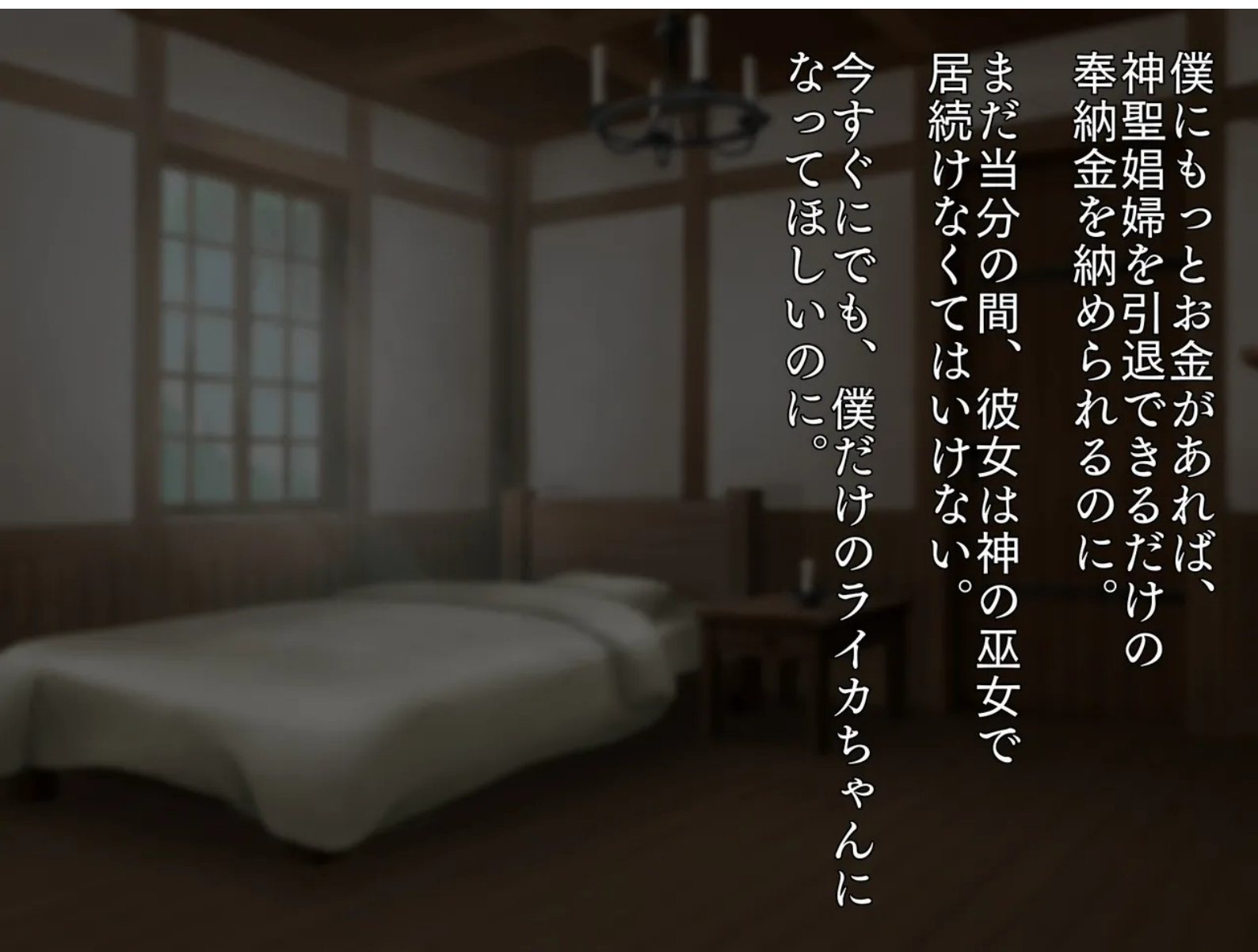
はい…♡
待っていますね

トロ♡

僕にもっとお金があれば、
神聖娼婦を引退できるだけの
奉納金を納められるのに。

まだ当分の間、彼女は神の巫女で
居続けなくてはいけない。

今すぐにでも、僕だけのライカちゃんに
なっってほしいのに。





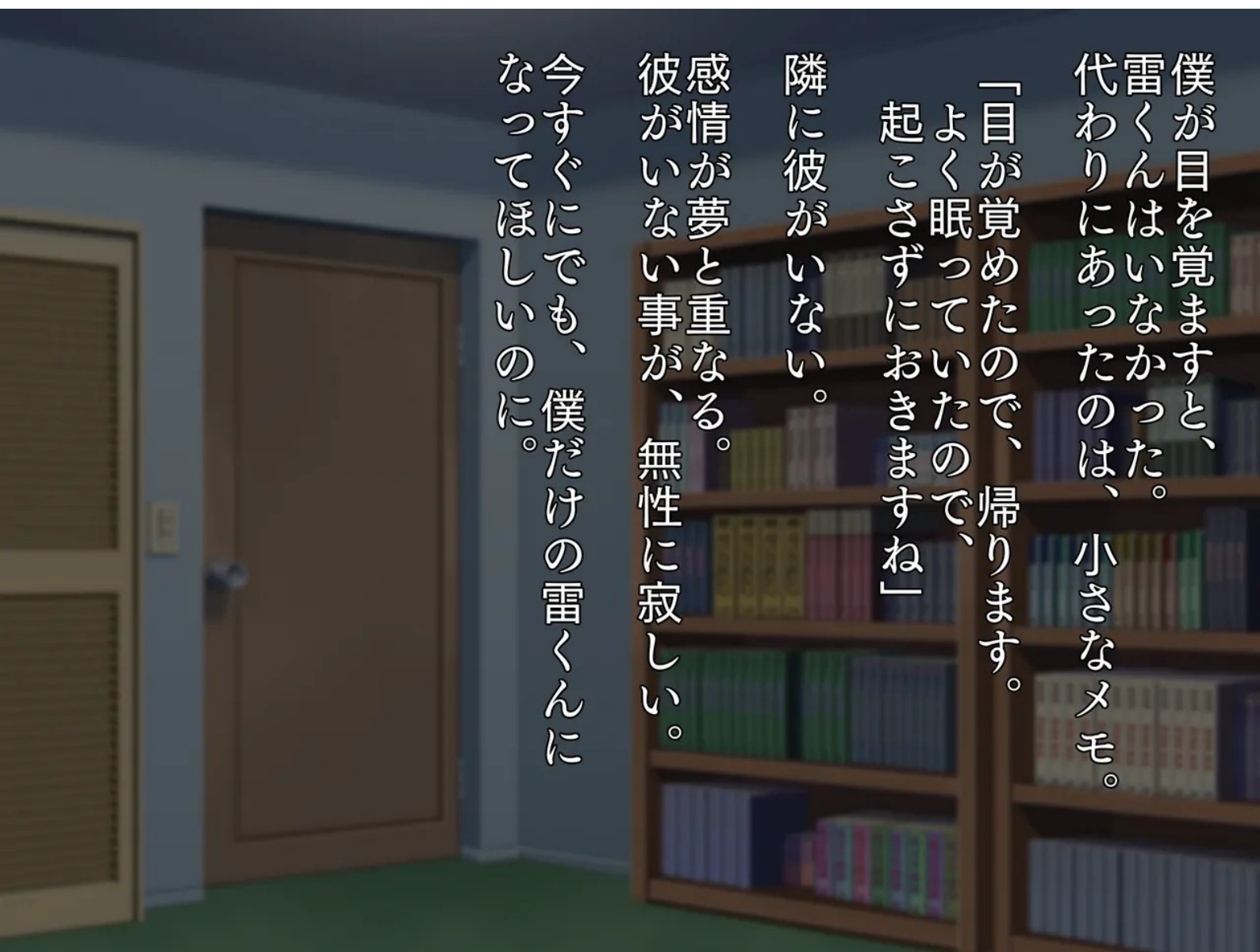
僕が目覚めると、
雷くんはいなかった。
代わりにあったのは、
小さなメモ。

「目が覚めたので、帰ります。
よく眠っていたので、
起こさずにおきますね」

隣に彼がない。

感情が夢と重なる。
彼がない事が、
無性に寂しい。

今すぐにでも、僕だけの雷くん
になってほしいのに。



2回目のセックスから2週間。
雷くんからの連絡を待っていたが、
スマホは鳴らなかった。

「会いたいな…」

これ以上は待てない。

雷くん「近いうちに会えませんか？」と
メッセージを送る。
すると、すぐに返事がきた。

「今からなら、時間は空いています」

僕は胸を高鳴らせながら、
家に来れるかとメッセージを送る。
彼から、すぐに行くとの返信がきた。

ようやく会える。

僕はベッドを整えて、彼の到着を待った。

数十分後――

お待たせして
しまいましたか？

大丈夫ですよ

良かったです

では着替えるので
ちよつと待っていて
くださいね

今回は着替えずに
やりませんか？

そのままの雷くんと
したいです



え!?
少しでも女の子に
見えた方がいいと思うし
着替えたいです:!!

どうしてですか?
そのままでも可愛いのに

あせっ

でも
もっと可愛いって
思っ
て欲しいですし...

せめて
髪飾りだけでも:!!

分かりました
じゃあ髪飾りを付けて
しまし
ようか

はい
ありがとうございます！

なんで雷くんは
そこまで女装に
こだわるんだろう…？

ベッドに
いきましようか

はい



裸に髪飾りだけを
身につけた雷くんが
開脚して寝転がる

頭をレースで飾って
微笑む姿を見てると
彼が花嫁に見えてきた



花嫁みたいだね

ふふ…っ
綺麗ですか？

はい
すごく綺麗です

なぜか笑顔が
少し寂しそうだ

本当にあなた
お嫁さんに
なれたらいいのにな…





なつてくたさい
僕のお嫁さんに

え...？

僕は雷くんの
旦那さんにな
りたいです

：そんな事を言つて
後悔しませんか？
まだ僕の事をそんなに
知らないですよ？

たしかに
そうだけど...
でも僕の結婚相手は
君だけだつて
確信したんです

本能とか直感とか：
雷くんの事は
なんでも知ってるような
不思議な確信があるんですよ

：記憶はなくても
心で僕を覚えていて
くれてるんですね

：？
よく聞こえませ
んでしたか？
何ですか？

なんでもないです
あなたのお嫁さん
になれたのが嬉しく
て思わず声が出
ちやいました

：そろそろセッ
クスしまし
ょうか

そうですね



んん…っ
指が中に…

あー…
早く挿れたい…

ふっ…んっ…
挿れても
いいですよ？

でも今日は
まだ我慢します

なんでですか？

雷くん

今まで以上に

気持ちよくなって

ほしいからね

はー♡

いっ
る

ちゅ
いっ
る

いっ
る

ちゅ
いっ
る



ふあ…っ！
指の動き…っ
速くな…っ！

アナル
気持ちいいですか？

はいい…っ
浅い所を
出し…っ
気持ちいい
挿れ…っ
持…っ
ち…っ
い…っ
です…っ

浅いのが
好きなんだ？

ん…っ
深いのもどっちも
好きです…っ

はあ♡

ぴくっ

んん♡

ぴくっ

ちゅぷっ

ちゅぷっ



こつちも好きかな？

あう…っ
好きですっ
おちんぽも好きっ…！

亀頭を
撫でられるのも
いいんですね

ひゅん♡

なで♡

なで♡

ちゅぽ♡

びゅん

イイ…っ
あつ…んう…っ
もっと触って…っ！

はぁ♡

びゅん

わかりました

あぐ...っ!?
尿道口はダメ...っ!

駄目じゃないでしょ
気持ち良さそうだし
「もっと触って」って
言っただじゃないですか

ひん...っ
それは...っ
亀頭を
撫でてほしいっ
意味です...っ!

尿道口も亀頭に
ありますよ

やっ...ふあ...っ!
ダメっ...
イっちゃう...っ!

イってください!





はい
挿れてください

はぁっ♡

ふふ…っ
そうですか？

はぁっ♡

雷くんのイキ顔
エロ可愛いくて
好きだな

ふっ…あっ…
まだおちんぽ
挿れてないの…
イっちゃった…っ…

あー…もう
我慢できない…
挿れてもいいですか？

ドロ♡

びくっ♡

びくっ♡

びくっ♡





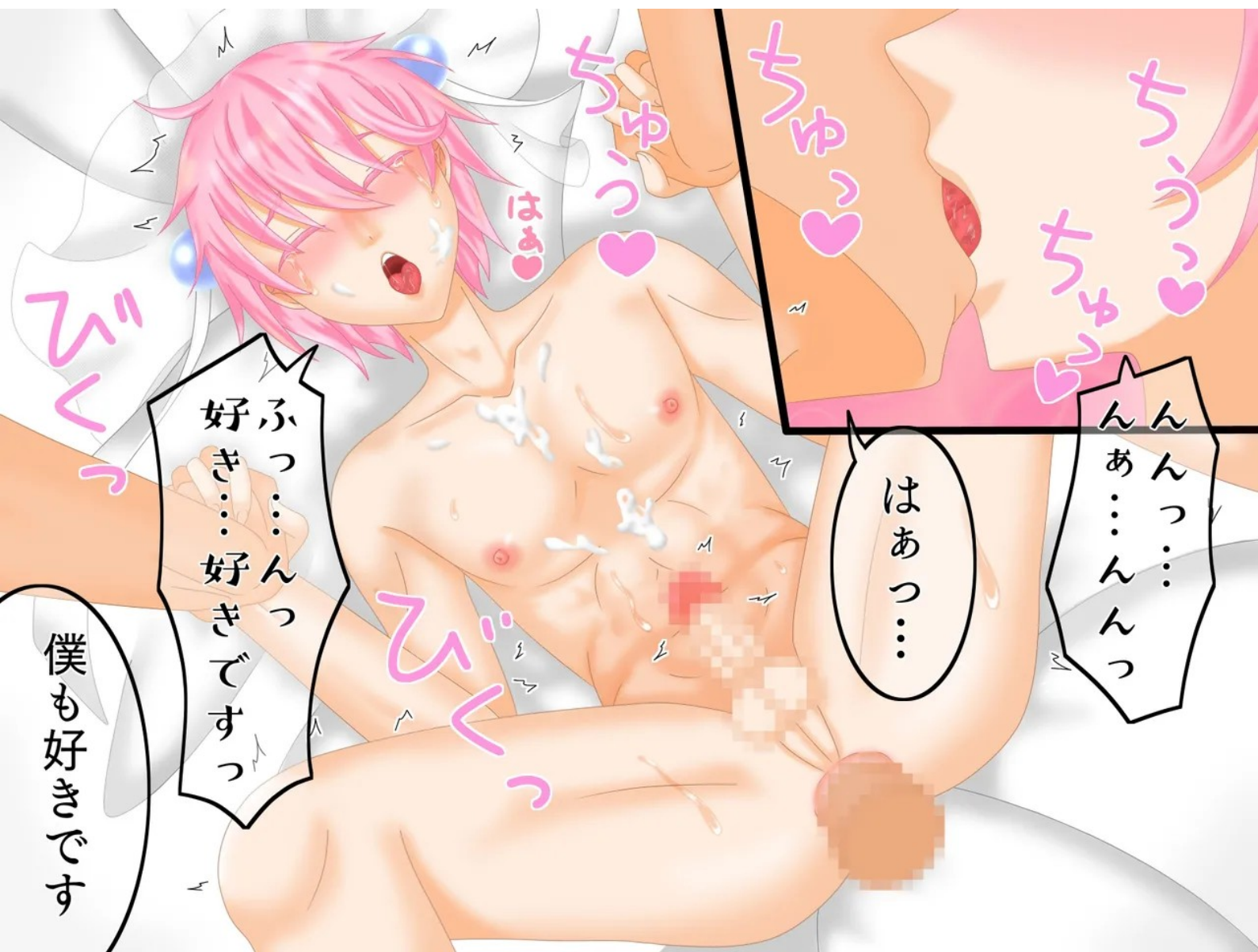
ふふ…っ
幸せだなあ…

僕も幸せだよ
キスしてもいいですか？

もちろんです…っ
キスしたい…

いっ
っ
っ

いっ
っ
っ



びくっ

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ふっ...んっ
好き...好きですっ

はあっ...

んんっ...
あ...んんっ

びくっ

僕も好きです



今からあなたの
お嫁さんだって証を
中にいっぱい
注いでもらえるんだ…

うん
たくさん証を
残すから
動きますね



はあっ
ひっ…あっ
中ごりごりされてるっ

気持ちいいですか？

気持ちいいっ

もつと気持ちよく
してあげるね





カッ
カッ
クッ

はひっ♡

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ

ダメっ！ダメえっ！
イぐっ！イぐよおっ！

僕のちんぽで
おかしくなって…っ！

とちゅっ
とちゅんっ

おがじくなりゅうっ！

ひぎっ！おおっ！
これっ！ダメえええっ！





ごめんっ
止まらないっ!

止まって!
イたばかりだから
止まってえっ!

またイ
ぐ
お
じゅ
ぽ

僕も射精すよっ!

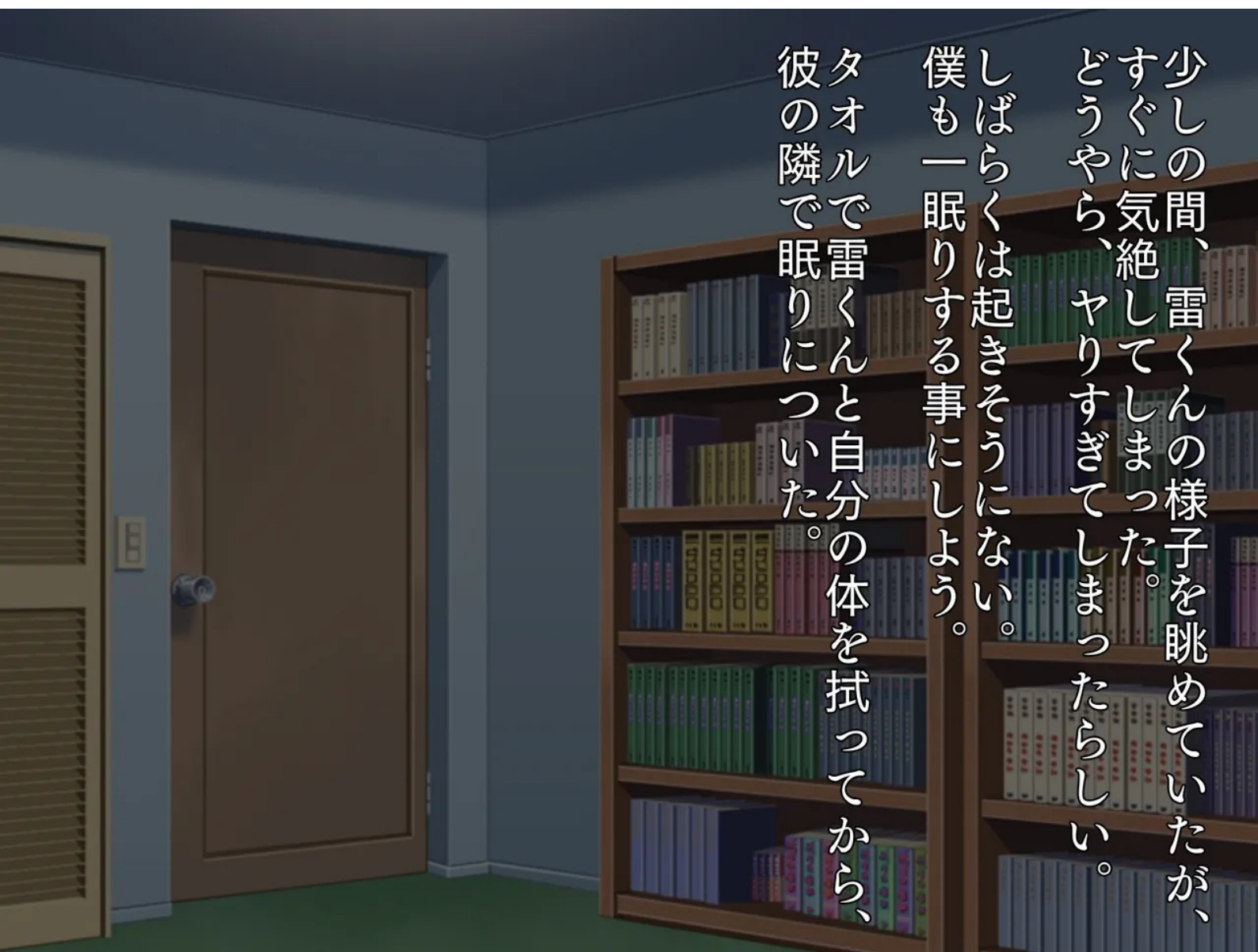




少しの間、雷くんの様子を眺めていたが、
すぐに気絶してしまった。どうやら、やりすぎてしまったらしい。

しばらくは起きそうにない。
僕も一眠りする事にしよう。

タオルで雷くんと自分の体を拭ってから、
彼の隣で眠りについた。





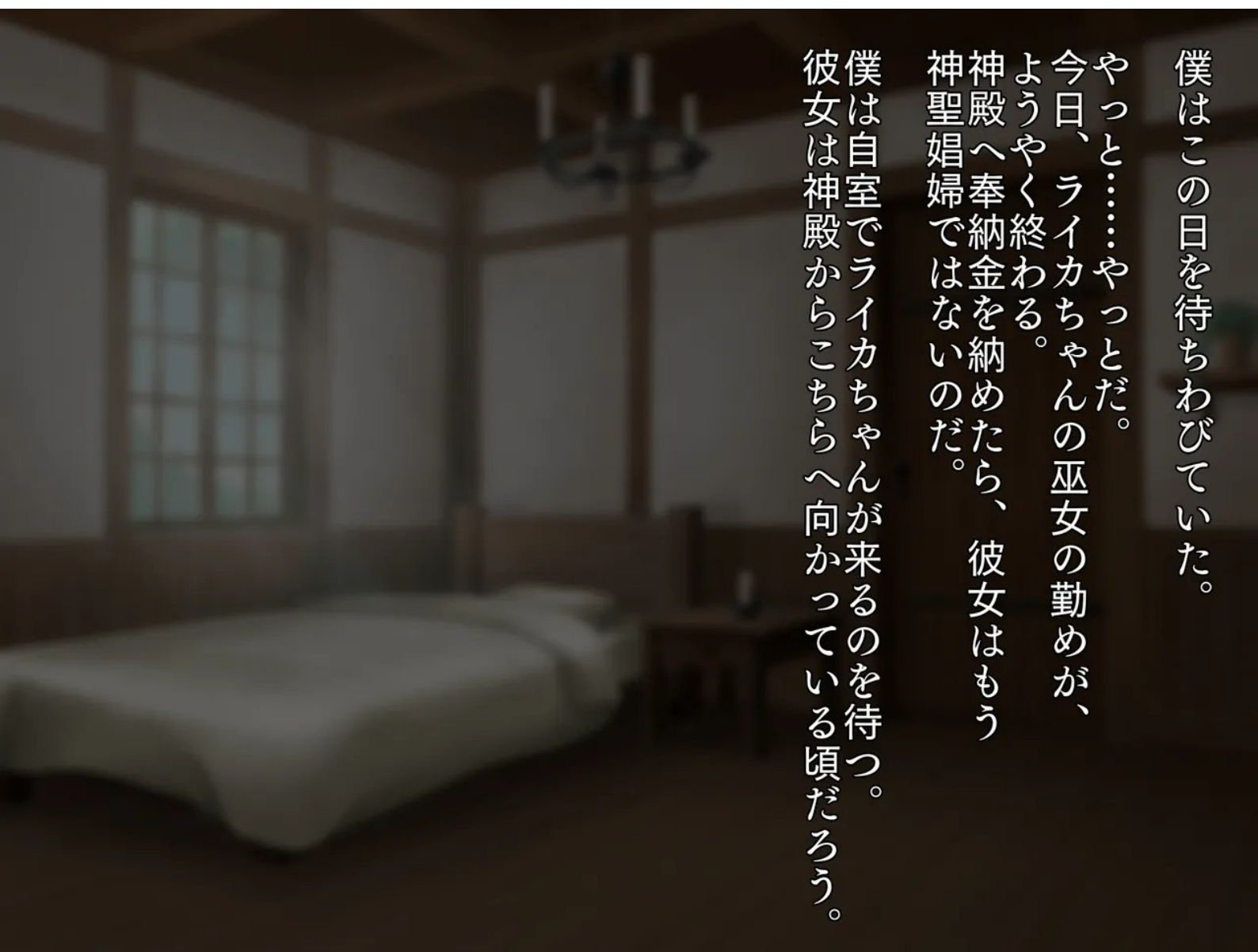
僕はこの日を待ちわびていた。

やっとな……やっとな。

今日、ライカちゃんの巫女の勤めが、
ようやく終わる。

神殿へ奉納金を納めたら、彼女はもう
神聖娼婦ではないのだ。

僕は自室でライカちゃんが来るのを待つ。
彼女は神殿からこちらへ向かっている頃だろう。



数十分後――

おまたせしました
奉納金を
納め終わりました

…今から私は
あなたのライカです

ライカちゃん…！
嬉しい…嬉しいです！

私も嬉しいです



参拝者さん：あっ：
もう参拝者さんでは
ありませんね

くす

これからは好きに
呼んでね

敬語もやめて
自由に振る舞っても
いいよ
ぼくもそうするから

ふふっ：
そうだね



ライカちゃん…
僕と結婚してください！

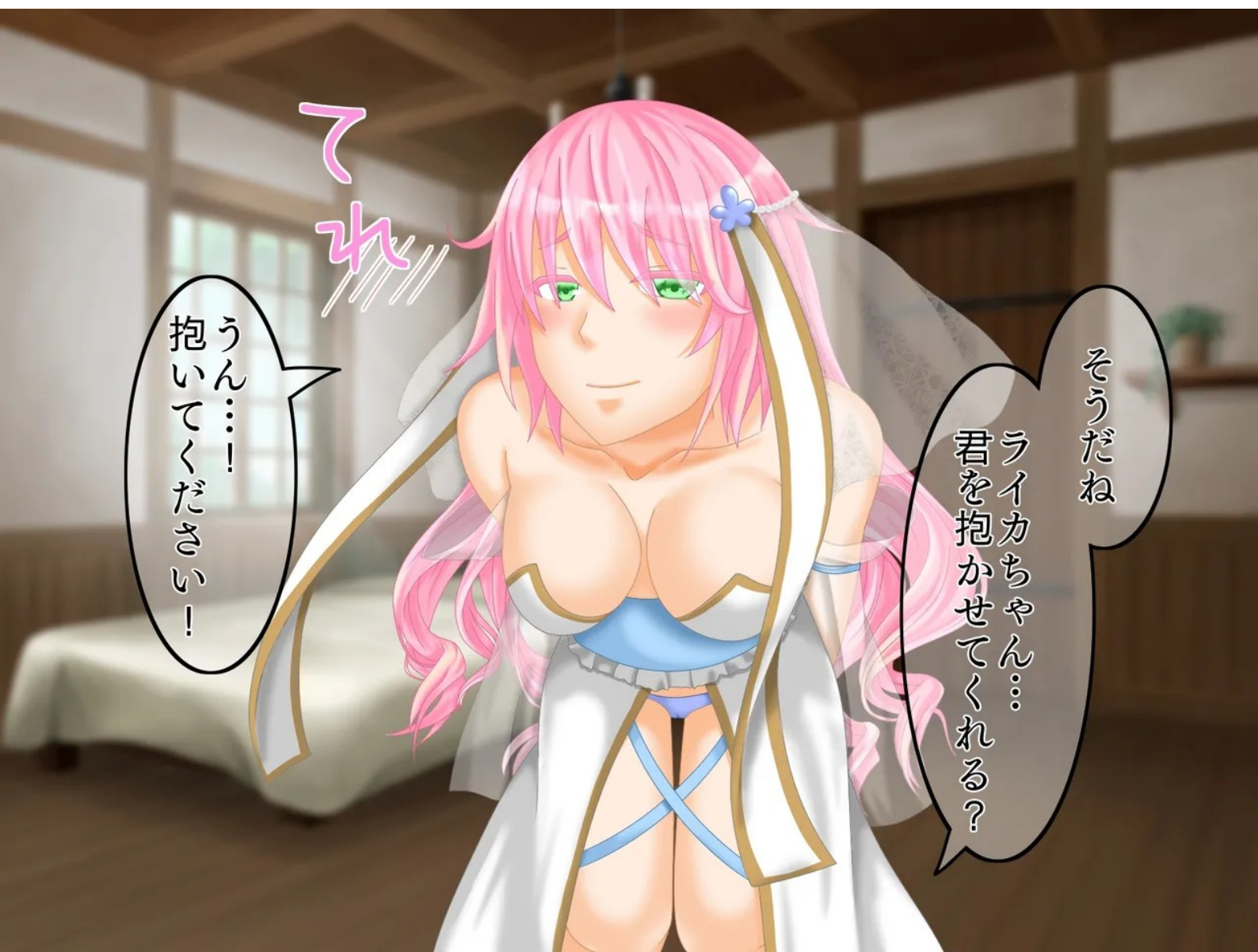
にっ

…！
はい…喜んで！

じゃあ今から夫婦だね
まさか聖婚できるなんて
前は思ってもいなかったよ

私も…
あなたと会えた事を
神に感謝しなくちゃ





うん...!
抱いてください!

そうだね

ライカちゃん...
君を抱かせてくれる?

てれ

ライカちゃんは服を脱いで
ベッドに寝転がった



ライカちゃん
綺麗だよ

嬉しい…

こんな綺麗な人が
僕のお嫁さんだなんて
夢みたいだ

ふふっ…
夢じゃないよ
： 夢じゃないよ
： いっぱい触って
ちゃんとして現実だって
確かめてね

うん





初めてキスをする
とライカちゃんは
嬉しそうに受けてくれる

はあっ

んっ
ふんっ
ふんっ
んんっ

ようやくキスできた：
ライカちゃんか
僕のものになるまでは
キスはしないって
決めてたから

そうだったんだ：
キス処女守ってきた
良かった

え!?
ライカちゃんも
さっきのキスが
ファーストキスなの!?
：それは嬉しいな

ふふっ：
お揃いだね



堪らなく嬉しくなつて
僕は再びキスをした
それと同時に
おっぱいも揉みしだく

おっぱいふわふわだね
掌にコリつとした
乳首の感触も伝わってるよ

はうっ…んっ…
乳首っ…
押し潰さないでっ

何で？
気持ちいいでしょ？

むに

コリッ

ひくっ

ひくっ

ひくっ

はよ♡

だってまだ
挿れてもないのに…っ
イヤっちゃったら
嫌だもんっ

心配しなくても
何回もイっていいからね
僕は君が気持ちよく
なってる所が見たいから

んっ…う…っ
何回もイくなんてっ
はしたないよ…っ

おに

もに

ライカちゃんが
僕の手やちんぽで
はしたなくなっちゃうのは
大歓迎だよ





やあ…っ
指が…っ
おまんこに…っ！

だからもつと
誰にも見せたことが
ないような君を
たくさん見せてね

ひっ…あっ
ぐちゅぐちゅっ
しないで…っ！

ずびっ



おっぱいとまんこ
どっちが好き？

どっちも好きっ
気持ちいい…っ

はぁ♡

もみっ

ちゅぶ

ちゅぶ

もみっ

良かった
じゃあどっちも
いっぱい弄ってあげるね



あっ：ひあっ
そんなに激しくされたら：っ
イっちやうよあ：っ
イっちやうよあ：っ

Iってー!

はっ

ビッ

もみっ

ちゃっ
じゅっ

じゅっ
じゅっ

ビッ





上手にイけたね

はう…っ
はっ…はあっ…

あー…
僕のちんぽ
ガチガチだよ
挿れていい？

うん…っ
挿れてっ…！

はあ♡

はあ♡

ひくっ♡

ひくっ♡

ひくっ

ひくっ





これでいいかな？

きゃー♡

うー♡

うー♡

うん...っ

はー♡

きゃー♡

うー♡



行為中に手とか繋ぐと
もつと好きになっちゃって
巫女の仕事が辛くなるから
今まではできなかったけど…
これからはいっぱい
手をつなぎたいな…

うん
たくさん手を繋ごうね

はあ♡

いっしょっ



はぁ♡

ドキッ

ドキッ

うん

動くよ



はぁっ…あぁっ…
おまんこ…っ
気持ちいいよぉ…っ！

僕もちんぽ
気持ちいいよっ

はぁっ…あんっ…
中っ…いっぱい
擦れてるっ…！

もっとな気持ちよく
してあげるからっ

びくっ

じゅる

じゅる



どちゅ

ダメじゃないでしょ？

あひぐっ！
子宮口はあっ！
突いちやだめっ！

やあっ！
ダメっ！
イっちやうっ！

びゅ
びゅ
びゅ

どちゅ
びゅ







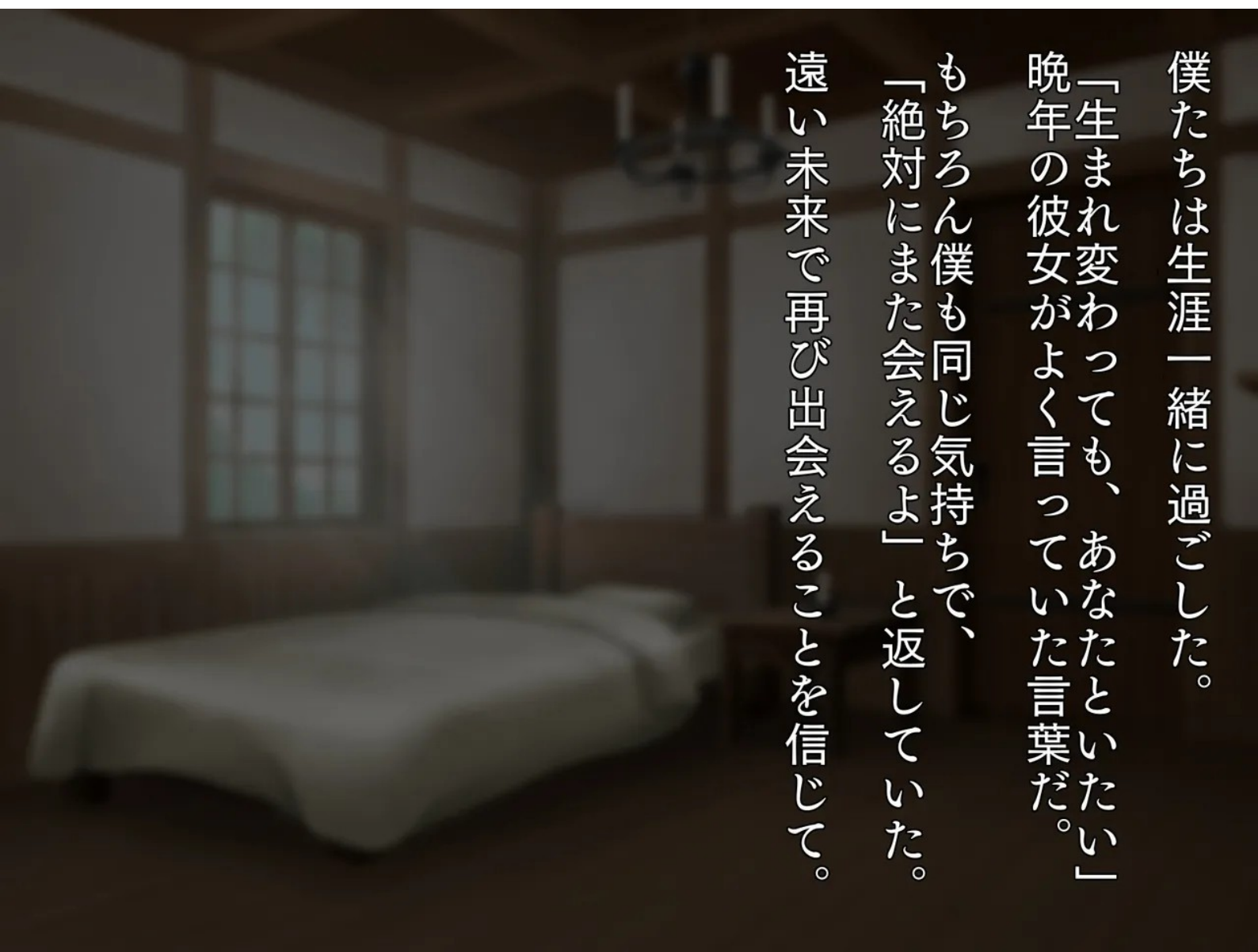
僕たちは生涯一緒に過ごした。

「生まれ変わっても、あなたといたい」
晩年の彼女がよく言っていた言葉だ。

もちろん僕も同じ気持ちで、

「絶対にまた会えるよ」と返していた。

遠い未来で再び出会えることを信じて。





夢から醒めた僕は、ゆっくりと目を開けた。

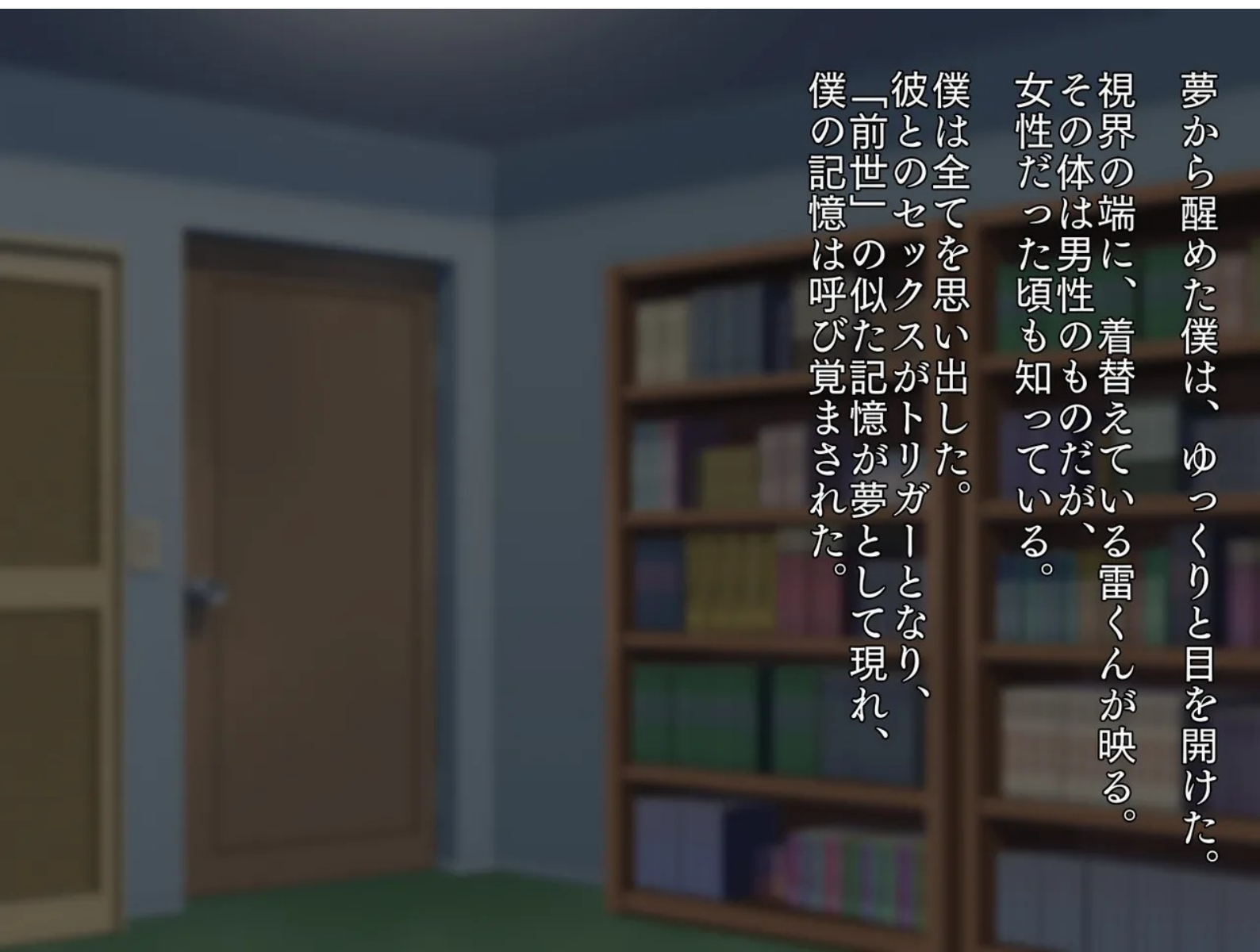
視界の端に、着替えている雷くんが映る。

その体は男性のものだが、女性だった頃も知っている。

僕は全てを思い出した。

彼とのセックスがトリガーとなり、

「前世」の似た記憶が夢として現れ、僕の記憶は呼び覚まされた。



雷くん…

あ…！
目が覚めたんですね
おはようございます

おはよう
敬語使わなくていいよ
“ライカちゃん”



え...?
...もしかして記憶...

うん
思い出したよ
君は僕を探して
会いに来てくれたんだね

ありがとう
...また会えて嬉しいよ





…っ！
僕も嬉しい…！

今世でも
ずっと一緒にいよう

ぽろ
💧

うん…っ！

今世で最初に会った時
僕の事を
覚えてなさそうだったから…

思い出してほしくて
前世でしたのと
似たセックスをしたり
言葉を言ったりしてみても
本当に良かった…！

うん
僕の記憶を
思い出させてくれて
ありがとう

たとえ記憶が戻らなくても
絶対にまた君を好きになっただけ
前世の僕と今の僕…
2人分の感情で
より君が愛しくなった

ぽろ

ぽろ



大好きだよ
“雷くん”

僕も…！
あなたが大好き！

これからまた2人で
たくさん思い出を
増やしていこう

うん！



×××年後――

あなたに神の力を
与えます

それが
神聖娼婦である僕の
役目ですから

また会えたね
雷くん























